

7 始業点検

始業点検を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行う習慣をつけ、本機を正常な状態に保つことが安全につながりますので、必ず実施してください。

警告

各部の点検を行うときは、本機を平坦で堅固な場所に置き、エンジンをかけて点検する項目以外は、必ずエンジンを停止状態としてください。

点検して不具合が見つかった場合は、直ちに販売店または、整備工場に修理を依頼し、必ず修理が完了してから本機を使用してください。

1. エンジン始動前に行う点検

1-1 油漏れ

本機の下（床面）に油のにじみか油のあとがないか確認してください。

1-2 エンジンの油量

図34のオイルゲージにて油量を確認してください。

まず、ゲージを外し布でゲージをふきとり、その後ゲージを差込んで、油の付いている位置を確認してください。FとLの間に油が付いていれば適量ですが、それより少ない場合は、油を補給してください。

尚、使用する油は下記の油です。

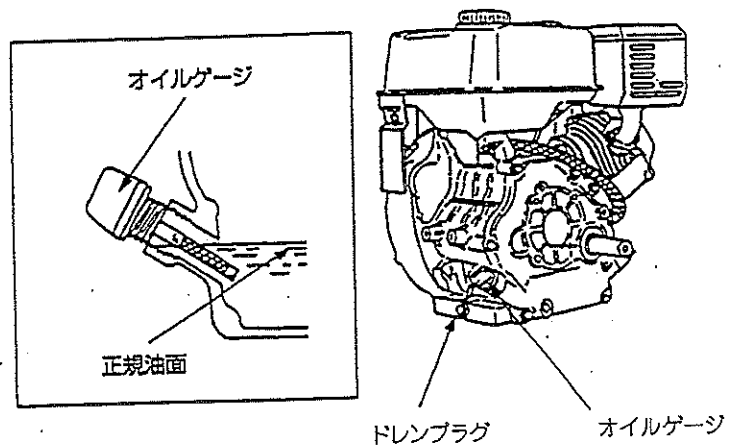


図 34

自動車用 ガソリンエンジンオイル	マルチグレード	10W30
	シングルグレード	30*

3. ミッション

・図31の検油栓を取り外し、オイルが検油口の口元まで入っているか、確認してください。

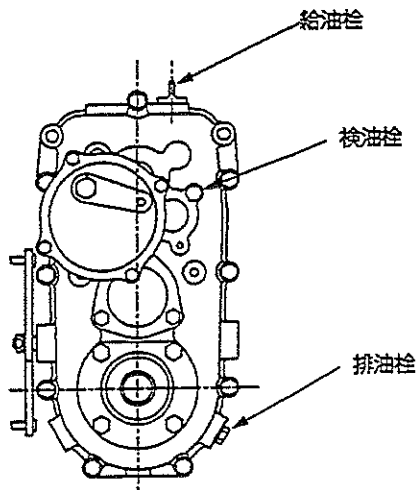


図 39

△ 処置

- ・オイル量が不足の場合は、検油口の口元まで補給してください。
- ・オイルがよごれている場合は、排油栓を取り外し、オイルを排出し、新しいオイルを給油してください。

☞ アドバイス

- ・オイルの種類は、SAE90#です。
- ・オイル量は約2.5ℓです。

▲ 注意

- ・こぼれたオイルは、ウエス等できれいにふき取ってください。
- ・給油口からゴミが入らないようにしてください。ミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

4. 油圧ポンプ

- 作業台を最も下げた位置で油圧ポンプの油量を確認してください。

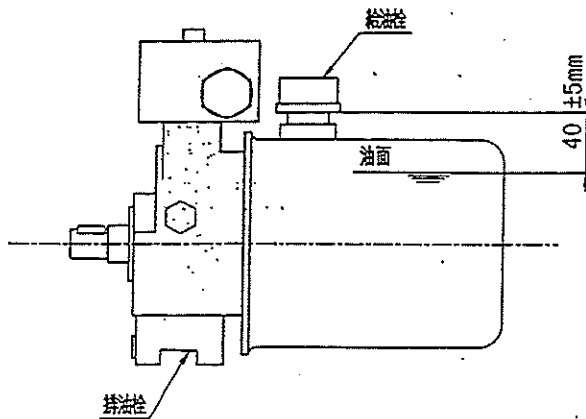


図 40

△ 処置

- オイル量が不足の場合は、給油栓を取り外し、オイルを補給してください。

🔧 アドバイス

- オイルの種類は、作動油46#相当です。
- オイル交換は、2年に1回を目安として交換してください。

⚠ 注意

- こぼれたオイルは、ウエス等できれいにふき取ってください。
- 給油口からゴミが入らないようにしてください。油圧ポンプに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- オイルを入れすぎると、傾斜地の走行時、給油栓よりオイルが飛び出る事があります。
オイルは規定量入れてください。